

「信仰によって」

～人生のジャイロ～

ヘブル10:32～39、ヘブル11:1～6

■ プロスペクトの法則

私たちの生きている中でこのプロスペクトの法則が生きている場合があります。これは損失回避の法則とも呼ばれるものです。それはこのようなものです。私たちが無条件で10万円を手にするのか、それとも半分の確立で20万円を手に入れるのか。また20万円の借金を確実に半分にするのか、それとも半分の確立で「0」にするのかという問いに対して私たちはどのような判断をするのでしょうか。この2つの質問で答えが1つ目が前者の無条件、2つ目が後者の賭けに出るという答えの方はこの損失回避の法則の中で生きている人で統計上多くの方がこれを選択するそうです。ではどちらも前者であった方は、問題が起これたとしても着実に乗り越えようとする方法です。これは統計上の多数派ではありません。私たちは信仰生活の中で問題と向き合い、乗り越えようとする選択をしていると感じています。マルチンターは「義人は信仰によって生きる」という言葉から、「たとえ明日、地球が滅亡すると、私はりんごの木を植える」と周囲に語り、また行動していました。このように目の前に起こることによって私たちは右往左往しない人生を送りたいと願っているのですが、そのような損失回避の考え方によって違った行動をしてしまっていることがあります。

■ 痛みの記憶に苦しんでいるのではなく、記憶の痛みを苦しんでいる

私たちは問題を見ないようにして生きているのでしょうか。それとも問題乗り越えようとしているのでしょうか。その問題とは私たちの古い性質から出てきていることがあります。今、まさにその古い性質を捨てて新しく歩んで行こうとしています。しかしその時、痛みの記憶に苦しみを覚えるのではなく、記憶の痛みを苦しんでいるのでしょうか。その解決方法は赦すことだけなのです。私たち苦しみを覚えているのは痛みが原因ではなく、記憶です。この事を知ったあるクリスチャンは赦すという行動に出ました。私たちは過去の記憶によって正しい決断をすることを止めようとしています。イエスキリストは十字架にかかり、私たちに新しい人生を歩みだせる究極の癒し（問題の解決）を与えて下さりました。あとは私たちが信仰を持って正しい道を歩み続けることができるのかです。日常生活の中においても目の前で起きることに対して私たちは何を基準に判断しているのでしょうか。過去の記憶でしょうか。それとも御言葉でしょうか。確認しながら進んでいきましょう。

■ 二心に注意

私たちは二心と常に闘っています。神様に造られた素晴らしい自分と過去の出来事によって築かれた偽りの自分が二心の要因です。私たちはこの二心を持ったままでは大事な時、油断している時など、足をすくわれ悪影響を与えてしまう場合もあります。ですから私たちの中にある二心に気づき、闘っていきましょう。その時にダビデは詩篇119:113においてこの二心を憎むと表現し、徹底的に戦う姿勢を表しました。私たちが二心に注意して歩みましょう。

■ 信仰によって～人生のジャイロ～

私たちの人生においてこのジャイロのようなもの必要なのです。ジャイロとは物体が自転運動をすると姿勢が乱されにくくなる現象です。私たちは立っている時に、倒れないのは倒れないように重心を傾け、バランスを取るように働いているからです。このように私たちの体は姿勢など保とうとする行動を自然にとっています。では私たちの人生において、傾き、倒れそうになった時、心のバランスと取れるような判断や決断ができていのでしょうか。私たちの心のジャイロは「信じる」ことです。すなわち信仰です。「信仰は望んでいる事から保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル11:1)」私たちは信仰をもって歩み出すときたとえ道から逸れそうになったとしても元の道に戻ることができます。また、目の前に起こることに対して逃げなければ必ず解決すると神さまは約束して下さいます。そのために信じて進むしかありません。聖書にはこのように書かれています。「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるためには必要なものは忍耐です。(ヘブル10:36)」私たちに必要なものは忍耐なのです。忍耐をし続けるためには信仰が必要です。

■ ①信仰は将来の鍵

私たちは信仰によって今までと違った行動をとっていきましよう。今まで困った人を見ても助けなかったのであれば、助けに行く。今まで自分から話しかけていなかったのであれば、自分から話しかけていく・・・など。私たちが新しい行動していくと、私たちが倒れそうになった時に、倒れないようになっていきます。信仰によって倒れそうになっても倒れないように力が働いていきます。ですから信仰はクリスチャンに安定を与えるものです。ペテロ（石や岩）の以前の名前はシモン（揺れ動く葦）でした。信仰によって何があっても動じない石のようになるのです。そして教会はその“石”が集まったところであり、“岩”のように安定した土台となります。なぜならば、神様は私たちがいつも元気にいてほしいだけなのです。「あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。(ヘブル12:3)」この言葉のように、私たちが周りの人の言葉や目の前に起こることによって落ち込んだり、元気を失わないために信仰を持って歩んでいく必要があります。それが将来につながっていきます。信仰は将来への鍵なのです。

■ ②信仰は保証～権利書～

「神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。(ヘブル11:6)」私たちはこの2つのことを信じて進みましょう。①神様が報いて下さる方であることを、②神様が報いて下さる方であることを。そうすれば、私たちの人生は信仰によって保証されています。この保証とは権利という言葉が使われています。私たちが信仰によって祝福を受け取る権利があるということなのです。私たちが置かれた場所で花をさかせ、良い実を実らせていくには、私たちに与えられている権利を知らなければいけません。知らないでいるから、遣わされた場所で間違った行動や言動をしてしまいます。すなわち権利を知らずにいる限り私たちの行動は間違い続けてしまうのです。私たちがする行動は何気ないことでも神様がした行動と見られていきます。なぜなら私たちは神の大使であり、その役割を担っているからです。ですから、まず権利を知り、私たちが遣わされた場所で権利行使していきましょう。

■ ③信仰はあなたを保つ

日本には様々なクリスチャンの歴史があります。戦国の世にあって「ジュリアおたあ」というクリスチャンがいました。彼女は豊臣秀吉が朝鮮出兵の際、捕虜として連れ帰った人でした。そして徳川家康の側室にしようとしませんが、拒みつけ、キリシタン迫害の際、島流しされて伊豆にある神津島に行き着きました。しかし彼女はその島流しの際も島民を助けたり、仕えたりして良い影響を与えていきました。そして多くの人に信仰を継承させていきました。このように信仰を保っていると、どこにいたとしても私たちは良い自分を保ち、周りに良い影響を与えていくことができます。今までの私たちがはすぐにあきらめてしまったり、投げ出してしまいがちになり、悪い影響を与えてきたことがあったかもしれません。しかし今は信仰によって神様の助けを求めつつ、新しい道を歩もうとしていて、変わってきていると思います。ですから信仰によってこの良い状態を保っていきましょう。

まとめ

私たちは神様にあって問題を回避する人生から問題を解決する人生へと変わってきています。今までのクリスチャンの歴史は自らの歩みを正しく保とうとした人々によって命がけで繋がれてきました。それは私たちがいつも喜びにあふれているためでした。それを受け取った私たちが歴史をつなぐものとして、悪くならぬ、倒れようとする思いに対して信仰をもって元に戻す人生へと変え、それを保っていきましょう。そうすると私たちの周りにいる人々が喜びに満たされる人生へと変えられていくからです。今週も信仰によって生きていきましょう。

(要約者:平澤 一浩)

(1月31日)